

9/8(木)

【分科会 3】 家族による家族学習会

横山恵子（埼玉県立大学）／飯塚壽美・岡田久実子・佐藤美樹子（さいたま・もくせい家族会）

この分科会には 65 名ほどが参加してくださいました。参加者の内訳は、家族の方が 6 割、専門家の方が 4 割で、学生の方もいらっしゃいました。流れは以下のとおりです。

あいさつ・企画趣旨・演者自己紹介（約 10 分）

■ 家族学習会の説明（約 35 分）

- ・4 年間にわたって家族学習会を実施してきた、埼玉県もくせい家族会の飯塚さん、佐藤さんが、家族学習会の推移、プログラム内容を説明しました。初回は大変だったそうですが、回を重ねるごとに達成感が大きくなり、家族学習会はこれからの家族会活動の要になるだろうと話していました。

休憩（デモ準備）

■ 家族学習会のデモンストレーション（約 60 分）

- ・会場から参加して下さる家族を 6 名募りました。
- ・飯塚、岡田、佐藤さんが担当者役で、家族学習会の一部をデモとして行いました。
- ・テキストを輪読し、病気や生活での対処に役立つ情報を共有した後、その内容に関して、お互いの体験を自由に語り合いました。
- ・担当者は参加者の悩みや辛さに共感すると共に、家族として頑張っている生活上の対処や工夫に注目し、それを伝えていました。
- ・家族同士の支え合いの中で、参加者は元気を取り戻し、担当者も多くのことを学び、互いが力を得るということが分かりました。参加者の方々が、終了後、とてもさわやかな表情をされていたのが印象的でした。

■ 専門家の役割（約 15 分）

家族学習会での支援者の役割について、岡田さんがこれまでの体験をとおして話しました。家族学習会の主役はあくまで家族だということを認識し、家族と同じ立場で協力し、家族が持っている力を引き出せる支援者になってほしいと話していました。

■ 質疑・ディスカッション（約 10 分）

参加者から、家族学習会を実施するための具体的なポイントについての質問をいただき、関心の高さが伺えました。家族学習会は、家族自身のリカバリーのきっかけとなる取り組みであるということ、あらためて実感することができました。

《横山恵子（埼玉県立大学）》